

▼組合の持久力と其一面……………	三九	▼第二回の會見まで……………	五九
▼鑛業所と宣傳……………	四一	▼東京に於ける諸運動……………	六一
▼組合の事件経過報告發表……………	四三	▼事件解決の顛末……………	六五
▼麻生氏最後の決心……………	四五	▼解決後の宣傳……………	六八
▼精鍊部遂に罷業す……………	四七	▼事件顛末書の發表……………	六八
▼棚橋氏の足尾着……………	五〇	▼罷業真相發表演說會……………	七一
▼鑛業所の應酬檄……………	五〇	▼社會主義者の麻生氏に對する批難……………	七三
▼荳場氏の斡旋開始……………	五一	▼組合運動への影響……………	七八
▼佐々木麻生兩氏の會見……………	五三		
▼内務省の罷業狀態發表……………	五五	附錄	
▼攪亂的檄文の配付……………	五六	鑛夫雇傭勞役規則、解雇者内容	

第九回 労働調査報告 (足尾銅山労働争議)

▼労働組合運動と足尾

足尾銅山は鑛山労働運動に於て攻撃線、守備線の焦點として位置し既に多くの罷業は此處に繰り返され、罷業が暴動化せる歴史を有すること亦周知の事實なり。従て労働組合が同地に組合員を有すると否かを問はず足尾に於ける勞資の接衝に深甚の注視を怠らざるは、勿論或意味よりすれば、足尾は組合に取つて重き負擔の地なりと言ひ得べし。是は友愛會に例すれば、工場の芝浦製作所と銅山の足尾とは、衆目環視の地たることもに旗下格として、如何なる犠牲を拂ふも慘敗を回避せざるべからず、而も一方其經營者は復、斯界の雄者なるを思ふとき、難攻不落の名城(辭句妥當を缺くも)の聳ゆるを思はしむ。

友愛會鑛山部、大日本鑛山労働同盟會、全國坑夫組合が提携して行ひたる一昨年(一九二〇年)の罷業後、全日本鑛夫總聯合會の成立するあり、足尾の労働運動界も亦形勢に伴ふて變化し、鑛夫總聯合會と全國坑夫組合と併存の狀勢を以て今回の大罷業に臨みたり。

鑛夫聯合會は通洞、本山、小瀧の三山に支部を設置し更に精鍊部に會員を有す、三山支部及精鍊部